

4 オオタバコガの防除開始時期の目安(2011、2012年)

指標作物(ミニトマト)への産卵は、7月中旬以降にフェロモントラップへの第1世代雄成虫の誘殺とほぼ同時に確認され始めた。また誘殺が増加した後に産卵数が、続いて幼虫数が増加した(図3)。

オオタバコガ幼虫は、ふ化後すぐに新芽や果実等を食害する性質があり、卵期間は20で4.3日、25で3.0日(小島:1996年)であることから、オオタバコガの若齢幼虫を対象とする防除は、フェロモントラップに第1世代雄成虫の誘殺が始まった時期から誘殺数が増加する時期に開始するのが効果的である。

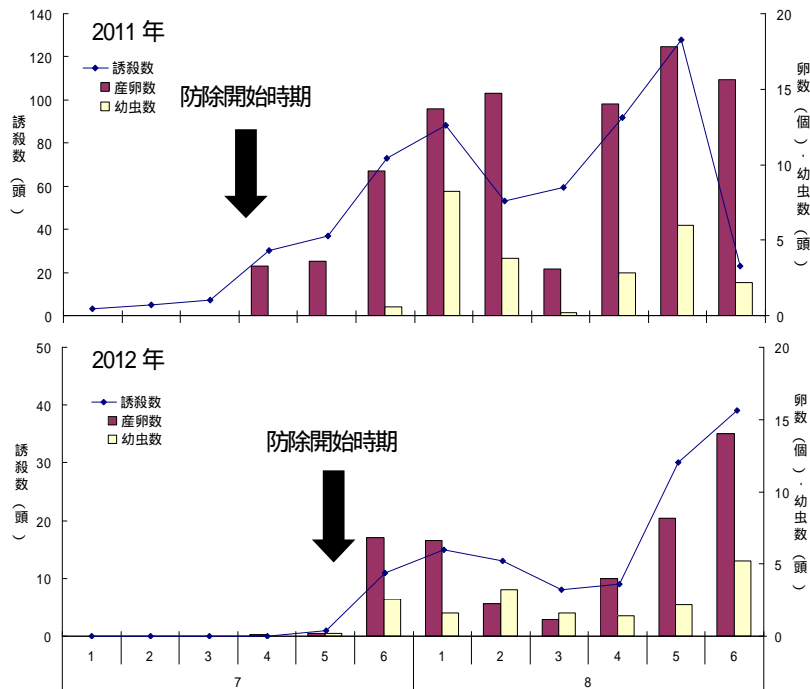


図3 7~8月のオオタバコガ誘殺数と卵数、幼虫数の推移(北上市)
卵数と幼虫数は株当たりの数値

5 発生予察への活用と注意点

フェロモントラップは、1.0~1.5m程度の高さに設置し、通風の悪い場所は避ける。
オオタバコガは長距離移動することが知られており、断続的に飛来していると考えられるので、強風や台風接近前後には誘殺数の急激な変化に注意する。
有効積算温度による発生時期予測を行うためには、日別平均気温データが必要である。
指標作物(ミニトマト)を設置することで、フェロモントラップへの誘殺が少ない場合でも、卵によりオオタバコガの発生を確認することができる。産卵は植物体の先端部に多いため、観察は先端部を中心に行う(図4)。

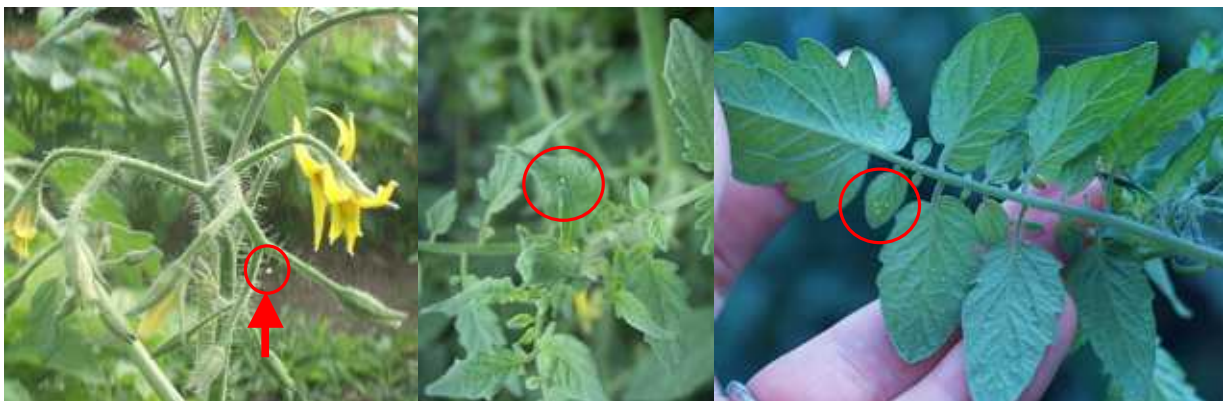


図4 オオタバコガによる指標作物(ミニトマト)の先端部付近への産卵
(左:花梗部 中:葉表、右:葉裏)